

西之表市埋蔵文化財発掘調査報告書（12）

県営畠地帯農道網整備事業（深川2期地区）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

あおのはら  
青野原遺跡

2004年2月

鹿児島県西之表市教育委員会

## 序 文

種子島は、黒潮流海の中に位置し、平底な大地と数多くの小川があり、照葉樹林が繁茂し、その占くから自然の恵みを受け豊かな環境のもとにあることから、島の各所から遺跡が数多く発見されています。

この青野原遺跡は鹿児島県農政部（熊毛支庁土地改良課）が畑地帯農道網整備事業（深川2期地区）を計画したことにより、西之表市教育委員会が調査主体となり、平成14年度に発掘調査を実施したものです。

本発掘調査は、狭小な調査範囲を短期間に行ったものですが、縄文時代早期の土器、石器類が出土しました。また、周辺の遺跡からは弥生・古墳時代の遺物も出土していることから、長い年月にわたりこの周辺一帯で人々が生活していたことが伺われます。

この遺跡に立つと、眼下に東シナ海が望まれ、後背地には豊かな照葉樹林帯が広がり、古代から狩猟生活に好環境であったことが理解できます。

本報告書が学術的文献として活用されるのはもとより、市民の文化財保護意識高揚の一助となることを念じる次第であります。

最後に、本報告書を刊行するにあたり、ご協力をいただきました鹿児島県教育府文化財課及び同県立埋蔵文化財センターをはじめ、発掘調査作業員の方々や深川地区の関係者、さらに貴重なご助言をいただいた諸先生方に対して厚くお礼を申し上げます。

平成16年2月

西之表市教育委員会教育長 有島 正之

## 報告書抄録

ふりがな	あおのはら いせき							
書名	青野原遺跡							
副書名	県営畑地帯農道網整備事業（深川2期地区）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
卷次								
シリーズ名	西之表市埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ番号	12							
編集者名	沖田純一郎							
編集機関	西之表市教育委員会							
所在地	〒891-3193 鹿児島県西之表市西之表7612番地							
発行年月日	2004年2月28日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
青野原遺跡	鹿児島県	462136	91	30° 39' 13"	130° 57' 09"	確認調査 20030513	75m <sup>2</sup>  155m <sup>2</sup>	農道建設
	西之表市					～ 20030603		
	桂皆瀬川					緊急調査 20031001		
	青野原					～ 20031012		
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
青野原遺跡	散布地	縄文時代早期	集石 配石	土器 (塞ノ神式) 磨製石斧 磨石 敲石 台石類ほか				

## 例　　言

1. 本書は、県営畠地帯農道網整備事業（深川2期地区）に伴う青野原遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 本調査は鹿児島県農政部（熊毛支庁土地改良課）の委託を受け、西之表市教育委員会が実施した。
3. 本書に用いたレベル数値は、鹿児島県農政部（熊毛支庁土地改良課）が作成した地形図に基づく海拔高である。
4. 本書の遺物番号は、全て通し番号で本文及び挿図・図版番号と一致する。
5. 発掘調査における測量・実測・写真撮影は主に沖田が行い、中村桂子・安藤美津子・桑原とも子が測量・実測の補助を行った。
6. 本書の執筆と編集は沖田が行い、実測および浄書は沖田・中村桂子・荒井美佳子・安藤美津子・桑原とも子・下園恵が行った。
7. 写真図版の遺物撮影は沖田が立会い、種子島開発総合センター委託職員尾形之善氏が行った。
8. 発掘調査及び整理作業に関して、鹿児島県教育文化財課・鹿児島県立埋蔵文化財センターの指導・協力を得た。
9. 出土遺物は西之表市教育委員会で保管し、展示・活用する。

## 目 次

第Ⅰ章 調査の経過 ······	1	第Ⅳ章 緊急発掘調査 ······	16
第1節 調査に至る経過 ······	1	第1節 調査の概要 ······	16
第2節 調査の組織 ······	1	第2節 層位 ······	16
第3節 調査の経過 ······	3	第3節 遺構 ······	16
第Ⅱ章 遺跡の位置と環境 ······	5	第4節 遺物 ······	19
第1節 遺跡の位置 ······	5	(1) 土器 ······	19
第2節 遺跡の環境 ······	5	(2) 石器 ······	22
第Ⅲ章 確認調査 ······	8	第Ⅴ章 調査のまとめ ······	35
第1節 調査の概要 ······	8	第1節 調査結果 ······	35
第2節 層位 ······	8	(1) 遺構 ······	35
第3節 各トレンチの調査 ······	12	(2) 土器 ······	35
第4節 遺構 ······	14	(3) 石器 ······	36
第5節 遺物 ······	14	(4) 総括 ······	36
		付編 青野原遺跡から出土した 炭化材の年代 ······	38

## 挿 図 目 次

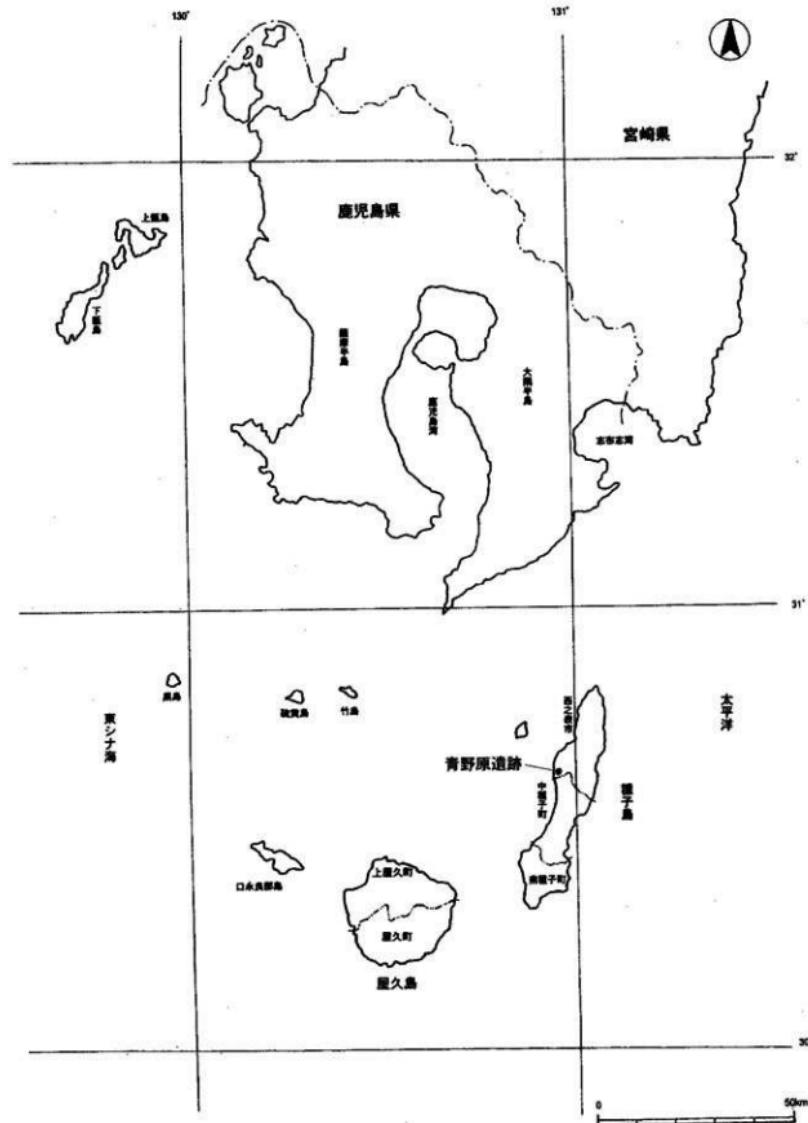
第1図 青野原遺跡の位置	23
第2図 青野原遺跡と周辺遺跡図 ······	6
第3図 調査対象地 ······	9
第4図 トレンチ配置図 ······	10
第5図 1トレンチ北側土層断面図 ······	11
第6図 トレンチ遺物出土状況図 ······	13
第7図 トレンチ出土遺物実測図 ······	14
第8図 緊急発掘調査対象地 ······	17
第9図 南側土層断面図 ······	18
第10図 遺構配置図 ······	20
第11図 遺構実測図 ······	21
第12図 遺物出土状況図 ······	23
第13図 土器出土状況図 ······	24
第14図 石器出土状況図 ······	25
第15図 土器実測図(1) ······	26
第16図 土器実測図(2) ······	27
第17図 土器実測図(3) ······	28
第18図 土器実測図(4) ······	29
第19図 石器実測図(1) ······	30
第20図 石器実測図(2) ······	31
第21図 石器実測図(3) ······	32

## 表 目 次

第1表 周辺遺跡地名表 ······	7	第5表 土器観察表 ······	33
第2表 トレンチ調査状況 ······	12	第6表 土器観察表 ······	34
第3表 トレンチ出土土器観察表 ···	15	第7表 石器観察表 ······	34
第4表 トレンチ出土石器観察表 ···	15		

## 写 真 図 版

図版 1 調査風景・遺物出土状況 ···	39	図版 6 出土遺物 (3) ······	44
図版 2 調査風景・遺物出土状況 ···	40	図版 7 出土遺物 (4) ······	45
図版 3 遺構検出・遺物出土状況 ···	41	図版 8 出土遺物 (5) ······	46
図版 4 出土遺物 (1) ······	42	図版 9 発掘調査に携わった方々 ···	47
図版 5 出土遺物 (2) ······	43		



第1図 青野原遺跡の位置

# 第Ⅰ章 調査の経過

## 第1節 調査に至る経緯

鹿児島県農政部農地整備係（熊毛支庁土地改良課）は、西之表市住吉深川地区内において畑地帯農道網整備事業を計画し、事業区内の埋蔵文化財の有無について鹿児島県教育庁文化財課（以下県文化財課）に照会した。

これを受け、県文化財課が平成9年3月に埋蔵文化財分布調査を実施した。その結果、事業区内に青野原遺跡・俣江遺跡が所在することが判明した。

分布調査の結果をもとに熊毛支庁土地改良課（以下土地改良課）・県文化財課・西之表市教育委員会文化課（以下市文化課）は遺跡の取り扱いについて協議を行い、俣江遺跡については、遺跡内の掘削は行なわないことになったが、青野原遺跡については、工事の設計上掘削を予定しているため、埋蔵文化財確認調査を実施することとなった。

確認調査は西之表市教育委員会が調査主体となり、平成14年5月13日から6月3日まで行った。調査の結果、農道工事対象地内に約150mにわたり遺物包含層が残存していることが確認された。調査結果をもとに、県文化財課・土地改良課・市文化課で遺跡の取り扱いについて協議を行い、工事の設計上遺跡の現状保存は困難であるため工事着工前に、対象地の埋蔵文化財緊急発掘調査（全面調査）を実施することとなった。

緊急発掘調査は農道工事の予算の都合や、周辺の作物の収穫状況等などから、土地改良課より平成14年10月に調査実施の依頼があった。これを受け、県文化財課と市文化課が協議を行った結果、埋蔵文化財と開発事業の調整を図るために青野原遺跡の緊急発掘調査を実施することとなった。

緊急発掘調査は西之表市教育委員会が調査主体となり平成14年10月1日から10月12日まで行った。

報告書作成のための整理作業は平成14年度・15年度に行った。

## 第2節 調査の組織

### （確認調査）

発掘調査主体者 西之表市教育委員会

発掘調査責任者 西之表市教育委員会 教育長 有島 正之

発掘調査企画担当 西之表市教育委員会 文化課 課長 鮎島 市憲

　" " 課長補佐 奥村 学

発掘調査担当 西之表市教育委員会 文化課 主事 沖田純一郎

発掘調査指導 鹿児島県教育庁文化財課

事業主体者 鹿児島県農政部 熊毛支庁土地改良課

発掘調査作業員 中里勝一・高原留吉・長野エミ子・上妻キヌ子・遠藤 誠  
平野照美・兼下光子・大里ヨシ子・上田三恵子・山下伸子  
下園恵・平山ハルエ・鎌倉アタエ・高橋ルリ子・中村桂子  
荒井美佳子・江口幸路

(緊急発掘調査)

発掘調査主体者 西之表市教育委員会  
発掘調査責任者 西之表市教育委員会 教育長 有島 正之  
発掘調査企画担当 西之表市教育委員会 文化課 課長 鮫島 市憲  
" " 課長補佐 奥村 学  
発掘調査担当 西之表市教育委員会 文化課 主事 沖田純一郎  
発掘調査指導 鹿児島県教育庁文化財課  
事業主体者 鹿児島県農政部 熊毛支庁土地改良課  
発掘調査作業員 中里勝一・高原留吉・長野エミ子・上妻キヌ子・上田三恵子  
山下伸子・鎌倉アタエ・高橋ルリ子・大里ヨシ子・下園 恵  
中村桂子・安藤美津子・桑原とも子  
整理作業員 中村桂子・荒井美佳子・安藤美津子・桑原とも子・江口幸路  
下園 恵・福島典子

(整理作業)

発掘調査主体者 西之表市教育委員会  
発掘調査責任者 西之表市教育委員会 教育長 有島 正之  
発掘調査企画担当 西之表市教育委員会 社会教育課 課長 阿世知猛雄  
" " 課長補佐 奥村 学  
整理作業担当 西之表市教育委員会 社会教育課 主事 沖田純一郎  
整理作業指導 鹿児島県教育庁文化財課  
事業主体者 鹿児島県農政部 熊毛支庁土地改良課  
整理作業員 中村桂子

### 第3節 調査の経過

確認調査は平成14年5月13日から6月3日まで行い、緊急発掘調査は平成14年10月1日から10月12日まで行った。以下調査の経過については日誌抄をもってかえる。

#### 「確認調査」

5月13日	月	午前中重機により表土剥ぎ。1～3トレンチ設置掘り下げ。 鮫島文化課長・奥村文化課長補佐来跡。
14日	火	4トレンチ設置。1～4トレンチ掘り下げ。1トレンチより土器片出土。 3トレンチ掘り下げ終了。
15日	水	5トレンチ設置。1・2・4・5トレンチ掘り下げ。1トレンチより石斧出土。深川部落長上妻氏来跡。
16日	木	1・2・3・5トレンチ掘り下げ。5トレンチ掘り下げ終了。1トレンチ拡張する。Aトレンチ設置掘り下げ。トレンチ配置図作成。
17日	金	1トレンチ掘り下げ、清掃。1・3トレンチ土納積み作業。熊毛支庁土地改良課米村氏来跡。上谷電気工事店プレハブ配線工事のため来跡。
20日	月	1トレンチ掘り下げ。住吉小学校発掘体験学習のため来跡（23名）。深川部落長上妻氏来跡。文化課奥村氏・種子島開発総合センター尾形氏来跡。（発掘体験学習会のため）
21日	火	1～3トレンチ掘り下げ。Bトレンチ設置、掘り下げ、土器片出土。2・3トレンチ掘り下げ終了、写真撮影。有島教育長・三浦教育委員来跡。
22日	水	1・A・Bトレンチ掘り下げ、2・3トレンチ清掃作業。
23日	木	1・Bトレンチ掘り下げ、土器片出土。遺物出土状況写真撮影。
24日	金	1・Bトレンチ掘り下げ。1トレンチ深堀り開始。
27日	月	1・A・Bトレンチ掘り下げ。乾燥を防ぐためトレンチ内に水を撒く。住吉中学校発掘体験学習（33名）。文化課奥村氏・種子島開発総合センター尾形氏来跡。
28日	火	1・A・Bトレンチ平板・レベル遺物取り上げ作業。各トレンチ土層精査。西側土層断面図作成。熊毛支庁土木課樺木係長・橋木氏来跡（県道改築事業に伴う発掘調査協議のため）
29日	水	A・Bトレンチ半裁掘り下げ。2・4トレンチ清掃。作業風景、土層断面写真撮影。
30日	木	1トレンチ土層断面作成。4トレンチ掘り下げ。A・2・3トレンチ埋め戻し。
31日	金	1トレンチ清掃、写真撮影。奥村文化課長補佐来跡。
6月3日	月	1トレンチ土層断面図作成。遺構面埋め戻し。道具片付け、調査終了。

「緊急発掘調査」

10月1日	火	重機による表土剥ぎ。掘り下げ開始。土器片、石斧出土。鮫島文化課長、奥村文化課長補佐来跡。
2日	水	掘り下げ、配石・集石検出作業。平板・レベル遺物取り上げ。
3日	木	遺構実測作業。掘り下げ、土器片・石器類出土。
4日	金	掘り下げ。平板・レベル遺物取り上げ。遺物出土状況写真撮影。
7日	月	掘り下げ。土器片・石器類出土。平板・レベル遺物取り上げ。床面清掃作業。
8日	火	掘り下げ。北・南側壁面清掃作業。南側重機により表土剥ぎ作業。
9日	水	B区掘り下げ。平板・レベル遺物取り上げ。遺物出土状況写真撮影。熊毛支庁土地改良課職員2名来跡。
10日	木	南側土層断面図作成。掘り下げ。
11日	金	調査地コンタ図作成。平板・レベル遺物取り上げ。清掃、作業状況写真撮影。調査地一部埋め戻し。調査終了。
12日	土	調査地重機により埋め戻し。

## 第Ⅱ章 遺跡の位置と環境

### 第1節 遺跡の位置

種子島は本土最南端の佐多岬から大隅海峡を隔てた、東南約40kmの海上にあり、南北52km、東西12kmの北北東から南南西に細長く伸びた、最高標高でも282.3mしかない低平な細長い島で、地形は丘陵性の山地、海岸段丘、河川付近の沖積低地からなり、西方に位置する屋久島とは対照的である。また、西海岸部には比較的砂丘が発達しているが、東海岸は断崖に富んでいる。行政区は北から西之表市・中種子町・南種子町と1市2町からなる。

青野原遺跡は西之表市の西海岸住吉深川の海岸段丘上に位置し、中種子町境に近い。住吉地区が所在する種子島の西海岸部一帯は砂丘が発達しているのが大きな特徴である。この砂丘上には地域性の強い土器とされている上能野式土器が出土した、上能野貝塚・嶽ノ中野B遺跡などがある。この、上能野式土器の分布は現在のところ、種子島・屋久島のみに限られており、古墳時代とされているが、その下限は不明とされている。

種子島の遺跡について述べると、約3万年前の旧石器時代の遺跡である横峯遺跡（南種子町）・立切遺跡（中種子町）や、細石核・細石刃が採集された湊遺跡・大中峯遺跡（西之表市）があり、奥ノ仁田遺跡（西之表市）の調査によって縄文時代草創期の遺跡が初めて確認され、その後三角山遺跡（中種子町）・鬼ヶ野遺跡（西之表市）の調査で縄文時代草創期の住居址や多数の遺構、遺物が発見され注目を浴びている。その後の縄文時代早期・前期の遺跡も島内各地で確認されているが、中期の遺物の報告例は少ない。後期の遺跡は指宿式・市来式などが出土する遺跡が島内各地で確認されており、納骨式土器の標識遺跡である納骨遺跡（西之表市）、特異な配石遺構が多数検出された藤平小田遺跡（南種子町）などがある。

弥生時代は田ノ脇遺跡・馬毛島椎ノ木遺跡（西之表市）などの埋葬遺跡や、中期頃の土器片が出土する遺跡が確認されているが、埋葬址が多いのが特徴的である。

古墳時代に属すると思われる遺跡は上能野貝塚・嶽ノ中野A・B遺跡（西之表市）などがある。種子島において、弥生時代以降の遺跡は縄文時代の遺跡に比べ極端に少ないため、未解明な点が多いのが現状である。

### 第2節 遺跡の環境

青野原遺跡は西之表市の西海岸中種子町境に近い住吉深川地区の台地状に位置している。西海岸一帯は砂丘が発達しており、砂丘状に弥生～古墳時代の遺跡が所在している。この砂丘上的一段上の台地に縄文時代の遺跡が所在し、青野原遺跡の周辺にも俣江・高峯・深川などいずれも塞ノ神式土器を主体とする縄文時代早期の遺跡が確認されている。



第2図 青野原遺跡と周辺遺跡図

第1表 周辺遺跡地名表

番号	遺跡名	所在地	地形	時代	遺物	文献等
1	嶽ノ中野A	西之表市住吉 上能野	台地	古墳	土器片	H13年 分布調査
2	嶽ノ中野B	西之表市住吉 上能野	台地	古墳	土器片	市埋文報告書(8)
3	能野焼窯跡	西之表市住吉 上能野	丘陵	歴史		
4	上能野貝塚	西之表市住吉 上能野	砂丘	弥生・古墳	土器片・貝製品・獸骨・鉄製釣針等	市概報・鹿児島考古第7号
5	仏ヶ峯	西之表市住吉 下能野	台地	奈良・平安		
6	住吉城跡	西之表市住吉 里之町	丘陵	歴史		県埋文報告書(43)
7	俣江	西之表市住吉 深川	台地	縄文	石器類	H10年 分布調査
8	青野原	西之表市住吉 深川	台地	縄文早期	土器片・石器類	H14年 発掘調査
9	高峯	西之表市住吉 深川	台地	縄文早期 前期	土器片・石器類	市埋文報告書(5)
10	深川	西之表市住吉 深川	台地	縄文早期	土器片	S59年 確認調査
11	古田城跡	西之表市古田 村之町	丘陵	歴史		県埋文報告書(43)
12	二本松	西之表市古田 二本松	台地	縄文草創期 早 期	土器片	南種子町郷上史・市埋文報告書(7)
13	中割	西之表市中割 万波	台地	弥生		

## 第Ⅲ章 確認調査

### 第1節 調査の概要

確認調査は農道工事対象地内に任意にトレンチを設置し、基本的に人力で掘り下げを行った。トレンチは現道面で、車・耕運機などの通行の妨げにならない場所に、7箇所設置し、大きさは遺物の出土状況、土層確認のため適宜拡張等を行った。調査面積は約75m<sup>2</sup>である。

### 第2節 層位

土層は場所によって、一部の層が欠落している部分もあるが、基本的には下記のとおりである。

#### I 層 表土

II 層 黒色土 (旧表土・固く締まっている)

III 層 黄橙色火山灰層 アカホヤ火山灰層  
(約6,400年前の鬼界カルデラ噴出物)

IV 層 ベージュ色ローム土 遺物包含層 (縄文時代早期)

V 層 明茶褐色粘質土 (非常に粘質が強い)

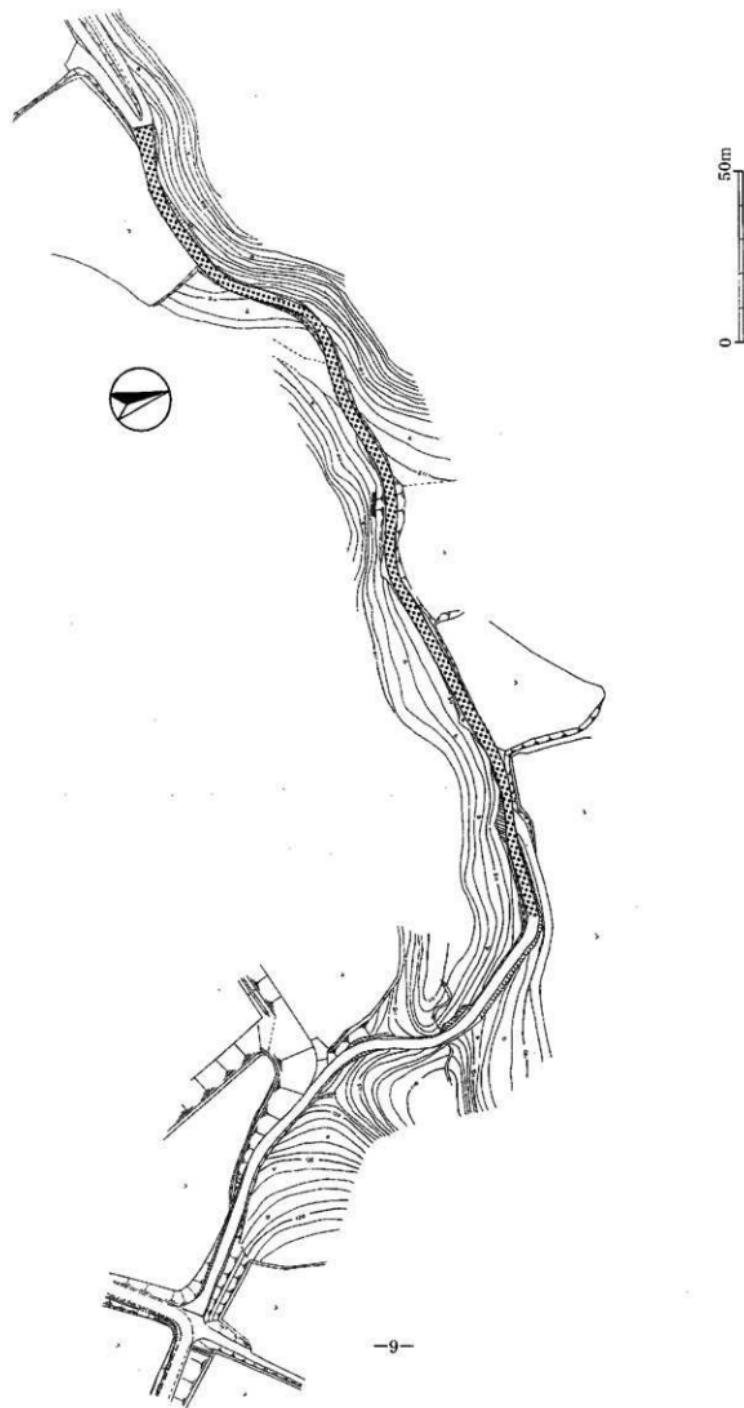
VI 層 明黄色火山灰層 A T火山灰層 (姶良カルデラの噴出物で細粒)

VII 層 黄橙色層

VIII 層 暗茶褐色粘質土層 (粘質が強く軟質である)

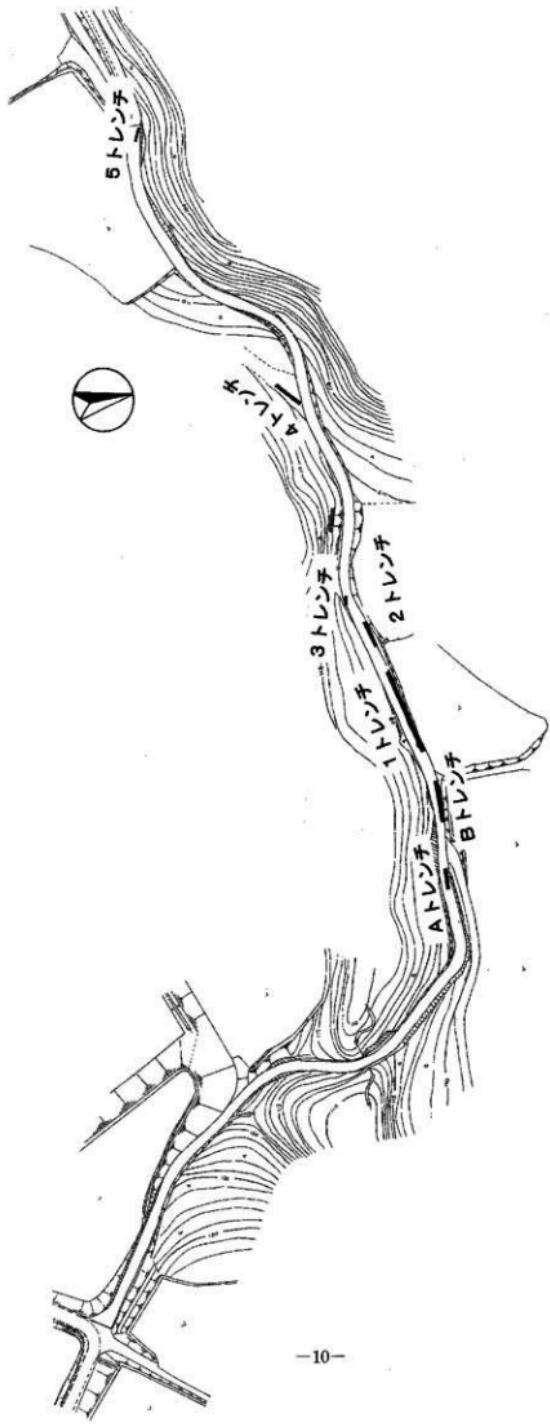
IX 層 橙色火山灰層 (種III火山灰に相当、約38,000年前の噴出物とされる)

第3図 調査対象地



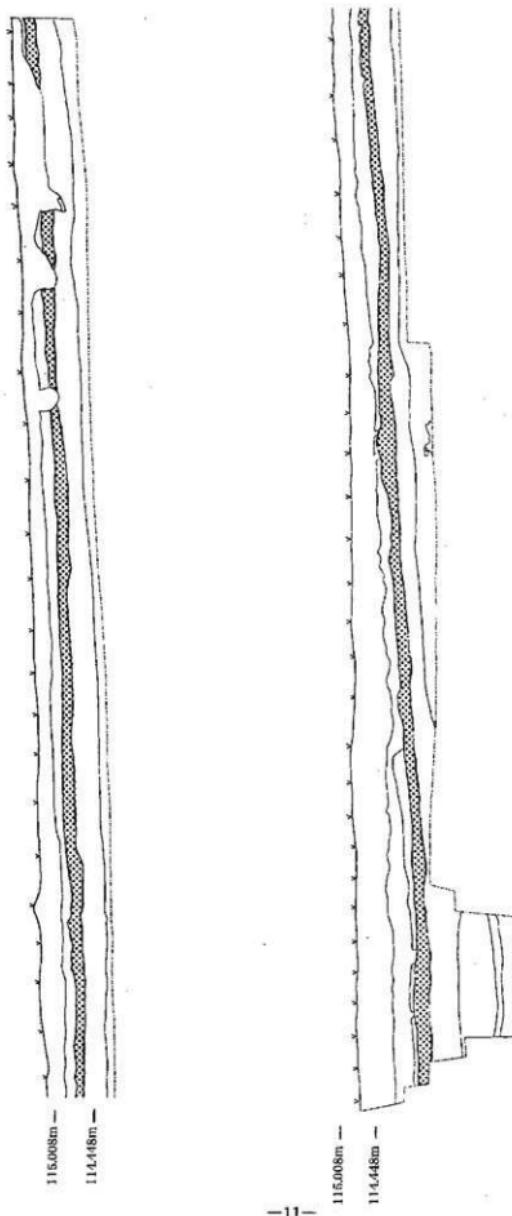
50m  
0

第4図 トレンチ配置図



第5図1 トレンチ北側土層断面図

2m



### 第3節 各トレーンチの調査

調査対象地区内に7本のトレーンチを任意の大きさで設定し、必要に応じては拡張しながら調査を行った。調査期間中でも農道は耕作物の管理の都合上、車・耕運機が通行するため、トレーンチの最大幅は約1mしか設置することができなかった。各トレーンチの調査については第2表にまとめた。

第2表 トレーンチ調査状況

No.	トレーンチ名	大きさ(m)	深さ(cm)	最下層	遺物	遺構	遺物が出土した深さ(地表面から)
1	1 トレーンチ	32.4×1.0	230	橙色火山灰層	○	○	18cm
2	2 トレーンチ	9.9×0.7	175	橙色火山灰層	×	×	
3	3 トレーンチ	3.3×0.9	200	橙色火山灰層	×	×	
4	4 トレーンチ	12.0×0.9	100	黄橙色層	×	×	
5	5 トレーンチ	5.0×0.9	130	橙色火山灰層	×	×	
6	A トレーンチ	5.3×0.8	115	暗茶褐色粘質土	○	×	10cm
7	B トレーンチ	10.5×0.9	70	暗茶褐色粘質土	○	×	10cm

遺物が出土したのは1・A・B トレーンチのみである。1 トレーンチは遺物の出土状況及び土層確認のため拡張を行った結果、長さが約3.2mになった。出土したものは土器片、磨製石斧などでいずれもアカホヤ火山灰層下位の、ベージュ色ローム層からである。土器片は約20点出土したが、小片が多い。また、遺構も1基検出された。この遺構は約20cmの砂岩が4つ重なった状態で、それぞれの礫は熱を受けた跡は見られなかったが、敲打痕は一部に観察された。今回は簡易な実測と検出地点の位置を把握した上で、砂をかぶせて埋め戻した。A トレーンチ・B トレーンチはアカホヤ火山灰層が削平されていたが、遺物包含層はかろうじて残存していた。よって遺物が出土する位置は非常に浅かった。1・A・B トレーンチで番号を付けて取上げた遺物は40点であった。4・5 トレーンチは搅乱及び削平を受けた痕跡が見られ、4 トレーンチは表土の下はV層明茶褐色粘質土、5 トレーンチはⅤ層暗茶褐色粘質土であった。2・3 トレーンチは土層の堆積は良好であったが、遺物・遺構は確認されなかった。

5m

第6図 トレンチ遺物出土状況・遺構配置図

● 土器  
▲ 石器

Aトレンチ



Bトレンチ

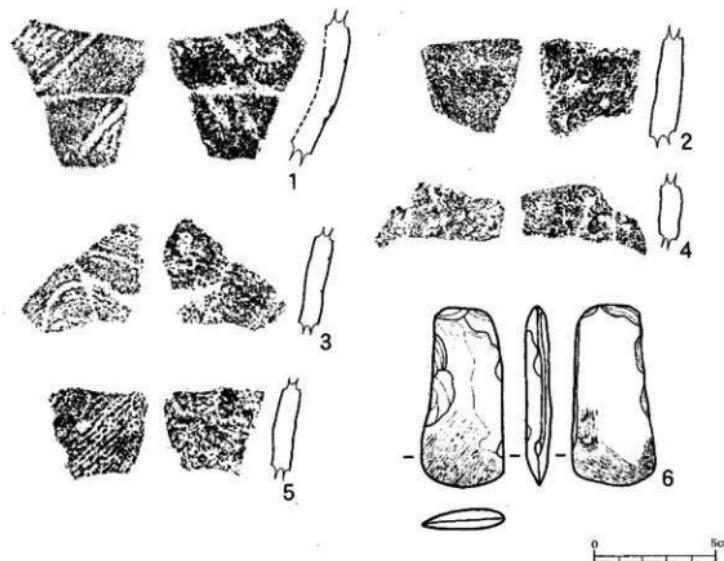


#### 第4節 遺構

1トレンチで配石状遺構が1基検出された。約20cmの砂岩が4つ重なった状態で、いわゆる調理場跡とされている一般的な集石とは趣が違い、石器を作るために集められたように見られる。4つのうち、2つは同一の疊であり、割れた状態で重なりあっている。いずれの砂岩も使用痕や熱を受けた痕跡は認められない。今回は簡易な実測を行い、砂をかぶせて埋め戻した。

#### 第5節 遺物

出土した遺物はすべて、1・A・Bトレンチからの出土である。番号を付けて取上げた遺物は40点になった。土器は小片が多く、図化したのは5点である。1・2・5は1トレンチから出土し、3・4はBトレンチから出土した。小片のため文様等は、はっきりしないが、5は燃り糸で施文している。石器は1トレンチから小型の磨製石斧や磨り石類が出土したのみである。



第7図 トレンチ出土遺物実測図

第3表 トレンチ出土土器観察表

挿図 番号	取上 番号	出 土 区	層	色 調		胎 土	備 考	
				外 面	内 面			
7	1	12	1T	IV	黄茶褐色	黄茶褐色	石英・長石・砂粒	
	2	13	1T	IV	暗黄茶褐色	黑茶褐色	石英・長石・砂粒	
	3	29	BT	IV	明茶褐色	黑茶褐色	石英・長石・砂粒	
	4	26	BT	IV	明茶褐色	茶褐色	石英・長石・砂粒	
	5	20	1T	IV	明茶褐色	灰黄茶褐色	石英・長石・砂粒	

第4表 トレンチ出土石器観察表

挿図 番号	遺物 番号	器種	取 上 番 号	出 土 層	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g	石 材	備 考
7	6	磨製石斧	17	IV	8.5	3.4	1.1	36	頁岩	1トレンチより出土

## 第IV章 緊急発掘調査

### 第1節 調査の概要

緊急発掘調査は確認調査の結果をもとに、工事対象地内で遺物包含層が残存している範囲のみ行った。調査は表土からアカホヤ火山灰層までを重機で除去し、その後人力で掘り下げを行った。確認調査の結果から、第IV層より下位は無遺物層であることが確認されていたため、今回の調査の最下層を第V層上面とした。調査期間中は農道を通行止めにし、排土処理の関係で西側から掘り下げを行っていった。番号を付けて取上げた遺物は221点であった。調査面積は約15.5m<sup>2</sup>である。

### 第2節 層位

土層は場所によって、一部の層が欠落している部分もあるが、基本的には下記のとおりである。

#### I 層 表 土

II 層 黒色土 (固く締まっている)

III 層 黄橙色火山灰層 アカホヤ火山灰層  
(約6,400年前の鬼界カルデラ噴出物)

IV 層 ベージュ色ローム層 遺物包含層

V 層 明茶褐色粘質土 粘質が強い

### 第3節 遺構

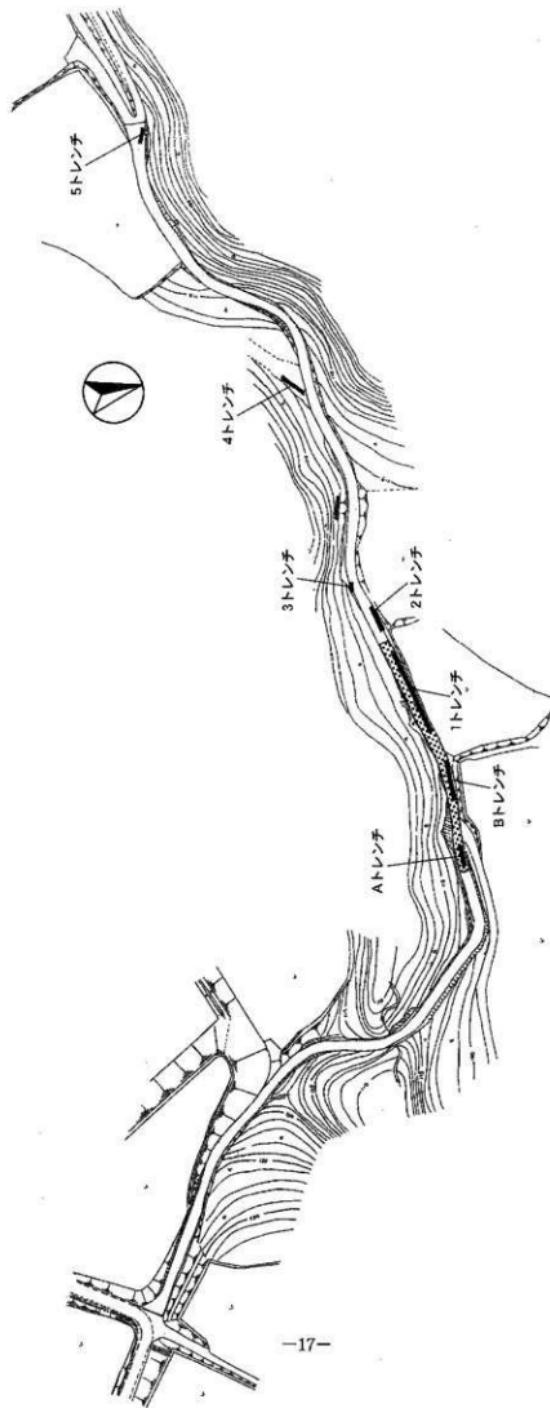
遺構は集石が1基・配石が3基検出された。検出面は全て第IV層である。

1号集石 拳程の礫が5.0cm×4.0cmの間にやや散在した状態で8点検出され、熱を受け赤化したものや、破碎したものが見受けられたため、集石と判断した。使用して崩壊したものと考えられる。中心部からは炭化物を検出した。

地表面の掘り込みは確認できなかった。礫は全て砂岩である。

0 50m

第8図 緊急発掘調査対象地

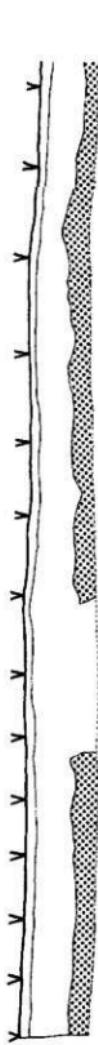


2m

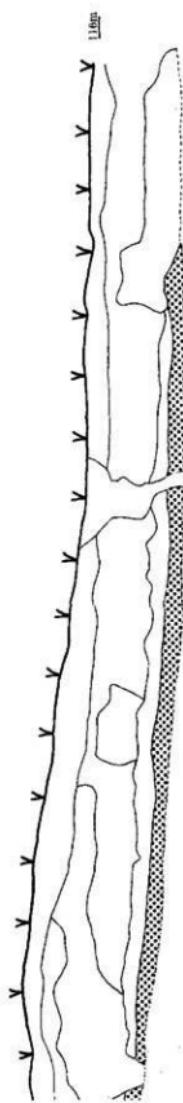
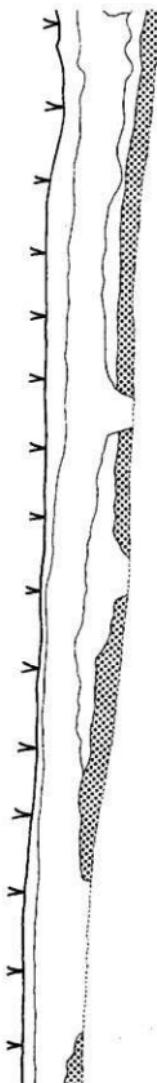
第9図 南側土層断面

0

1.6m



1.6m



1号配石 30cm程の礫や拳大の礫がほぼ東西に7個並ぶように検出された。大きな礫は熱を受け2つに割れ、他の礫も熱を受けた痕跡が見られる。礫は全て砂岩である。

2号配石 確認調査で検出されていた配石である。約20cmの礫が4点重なった状態で検出された。礫は全て砂岩で熱を受けた痕跡などは見られない。1番上の礫と下から2番目の礫は1個体のものが二つに割れたもので、一部敲打痕が見受けられる。

3号配石 矽が4点ほぼ一直線上に並ぶように検出された。いずれの矽も全て熱を受け赤化している。集石が崩壊したものとも思われるが、矽の点数が少ないため判断できなかった。矽は全て砂岩である。

#### 第4節 遺物

遺物は土器片・石器類が出土した。出土した屑は全てIV層である。時期区分では縄文時代早期に位置付けられるものである。

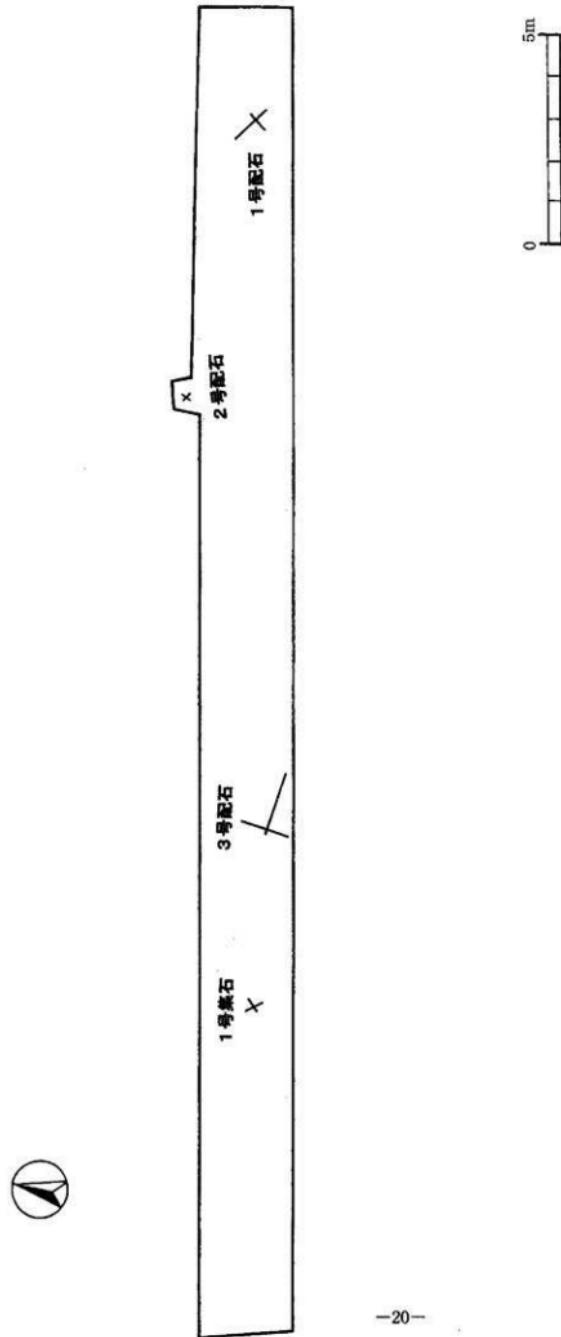
##### (1) 土器

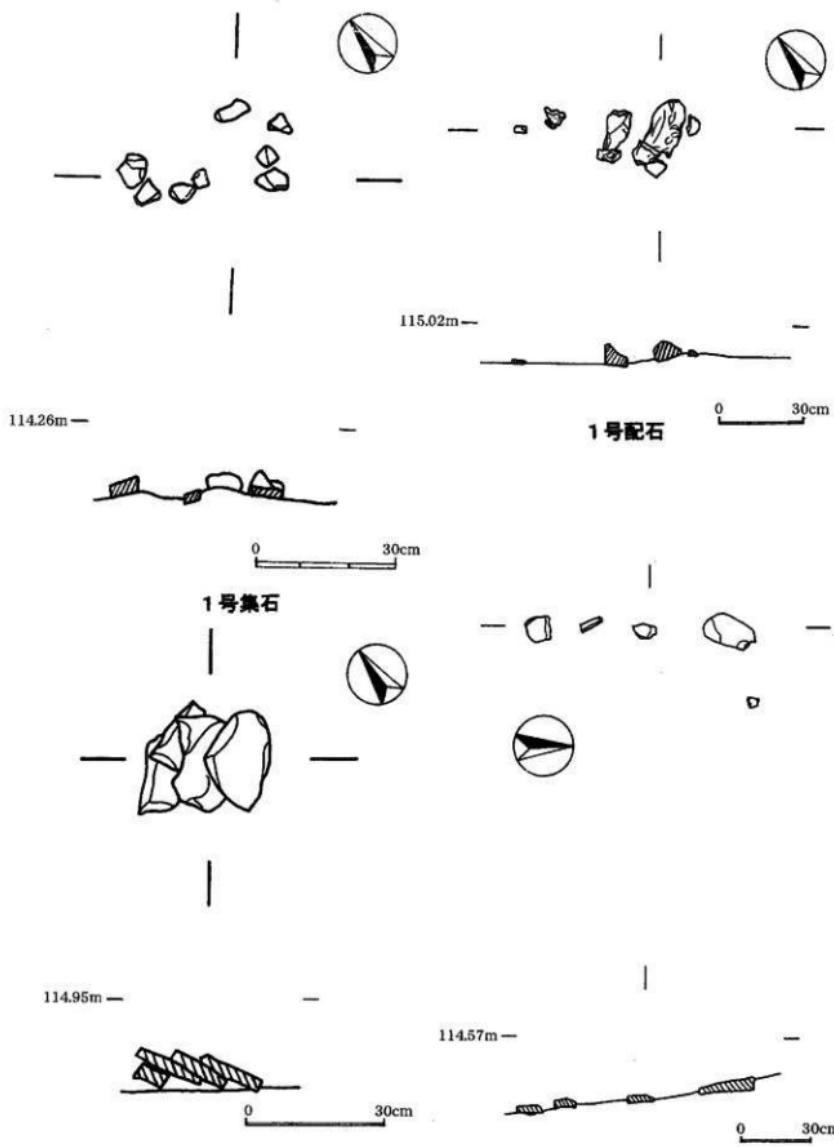
口縁部がラッパ状に外反する土器で、口唇部や口縁部に刻みや貝殻刺突・沈線を施し胸部には篦描きの区画内に貝殻条痕文、撚糸文を施した土器である。

7~14は口縁部片である。7は口縁上端部に2条、口縁下端部に3条の沈線を施し、沈線に沿って竹串状の小さな刺突を連続して行っている。刺突の間隔は1mmから3mmほどである。口唇部には不明瞭だが刻みがみられる。焼成は良好で、胎土に砂粒を多く含んでいるのが特徴である。この文様の土器片は1点だけの出土である。8・9・10は數条の沈線と貝殻による連続刺突文が見られ、9・10は口唇部に刻みをもつ。11は口唇部に刻みを持ち、口縁部上端部に数条の沈線と貝殻による連続刺突文が見られ、下端部には刻目を施した微隆帯を横位方向に巡らしている。胎土には小礫が多く含まれている。12は口縁部上端に貝殻条痕文を施しその下位に沈線、刻みと続く。13は表面に貝殻条痕を横位・斜位に施し、口唇部に刻みをもつ。14・15は風化で不明確だが14は刺突文、15は口唇部に刻みを持つ、無文の土器である。

16~26は区画内に施文がある胴部である。16・17・19・20は撚糸文を施し、18・21~26は貝殻条痕を施文している。18はやや湾曲しながら口縁部、底部につながるもので最大径が約25cmになり深鉢形土器になると思われる。27・28は摩滅のため不明確だが貝殻条痕が見られる。29~32は沈線、刺突文を施すものであり、29と32は同一個体と思われる。31には補修孔が見られる。33は刻み目を施した微隆帯を1条横位方向に巡らしている。35・36は頸部付近である。いずれも沈線、貝殻刺突を施している。37~40は無文の胴部である。37・39は磨耗が進んでいる。38は胎土に小礫が含まれている。

第10图 造構配置図





第11図 遺構実測図

41は底部の立ち上がり部分で、粘土の繋ぎ目部分が観察される。42・43は底部である。いずれも若干上げ底になると思われる。胎土に小礫・砂粒を多く含んでいる。

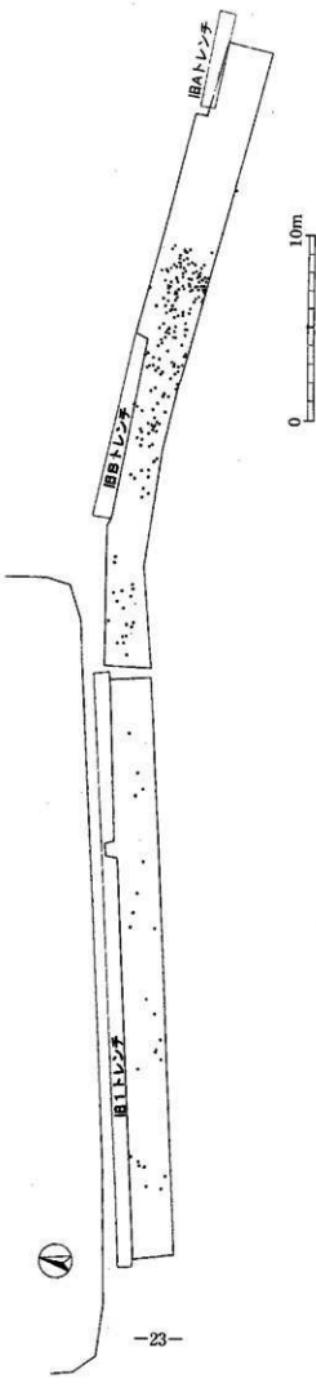
## (2) 石 器

石器は石斧・磨石・敲石・砥石・台石が出土した。

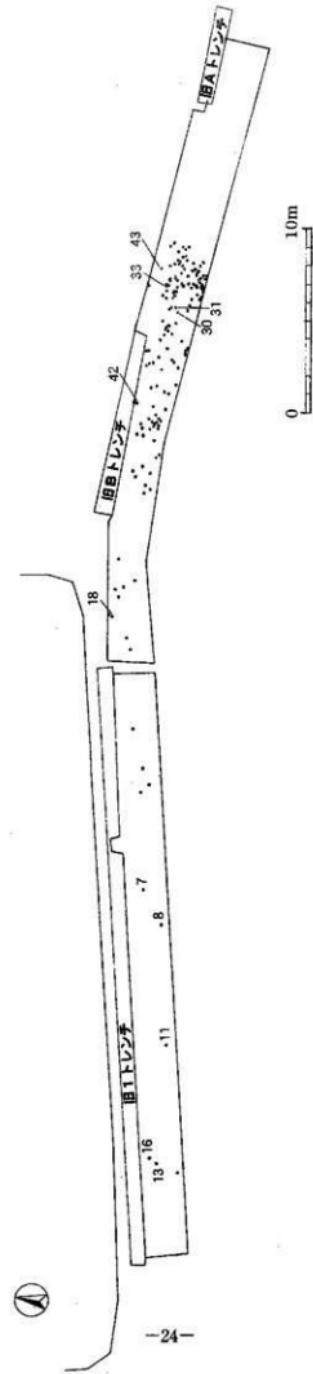
44～46は石斧である。44は刃部が外側に張り出し、刃先には研磨痕が見られる。小型で籠状の石斧である。45は基部の半分が欠損している。厚さが非常に薄い石斧である。46は石斧が真ん中から2つに割れたもので、基部の外側も破損している。この石斧は側面に敲打痕があり、刃部周辺にかけて丁寧な研磨痕が見られる。刃部はやや丸ノミの形状を呈している。

47～53は磨石・敲石類である。47は裏面が一部破損している、中央部・側面部に敲打痕があり、中央部には磨りも観察される。48は中央部に深い敲打痕が見られる。下端部にも浅い敲打痕がある。49は中央部に深い敲打痕がある裏面にも敲打痕はあるが、主に磨り石として使用したと思われる。50は浅い敲打痕が見られる。51は縦に長めの浅い敲打痕がある。側面・上端部にも敲打痕が見られる。また、磨石として使用した痕跡もある。52は中央部、側面に敲打痕があり、特に側面部の敲打が著しい。53は磨石としてのみ使用している。54は砥石である。自然面の若干くぼんだ部分を使用している。55～56は台石である。55は1号配石の礫で、2点が接合されたものである。中央部・上端部に敲打痕が見られる。56は小さな敲打痕が数箇所見られる。

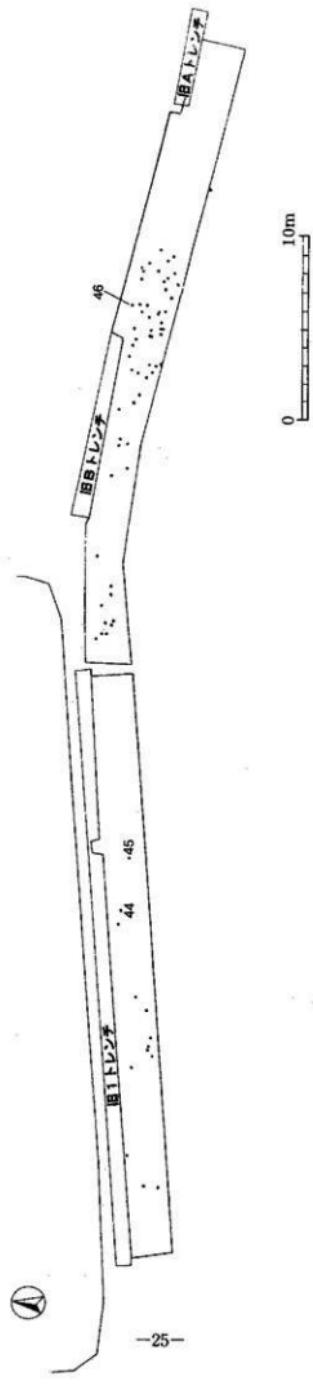
第12図 遺物出土状況

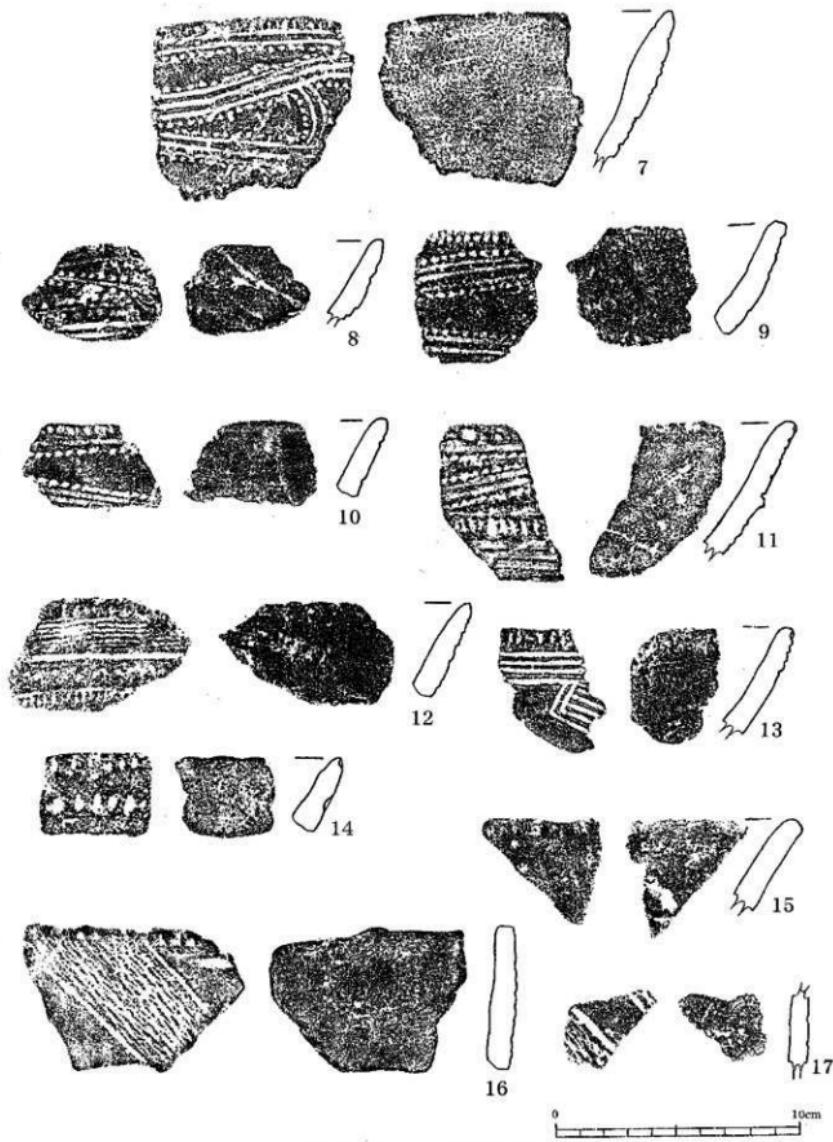


第13図 土器出土状況

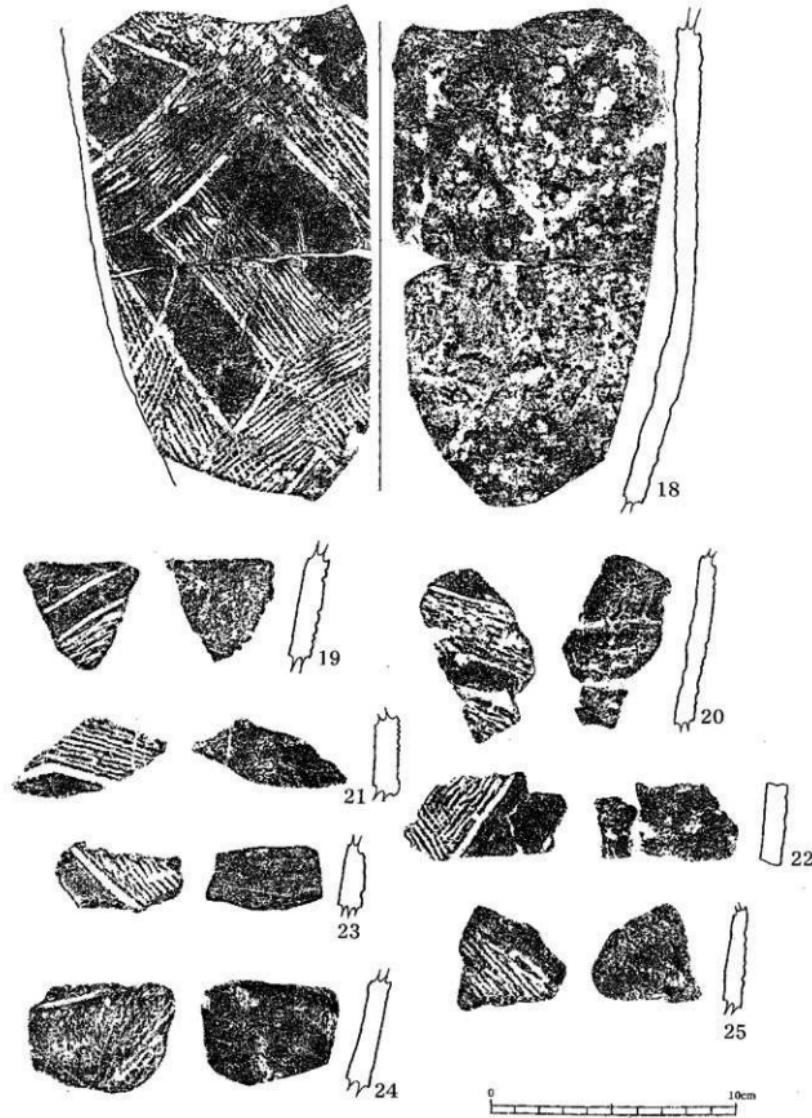


第14図 石器出土状況

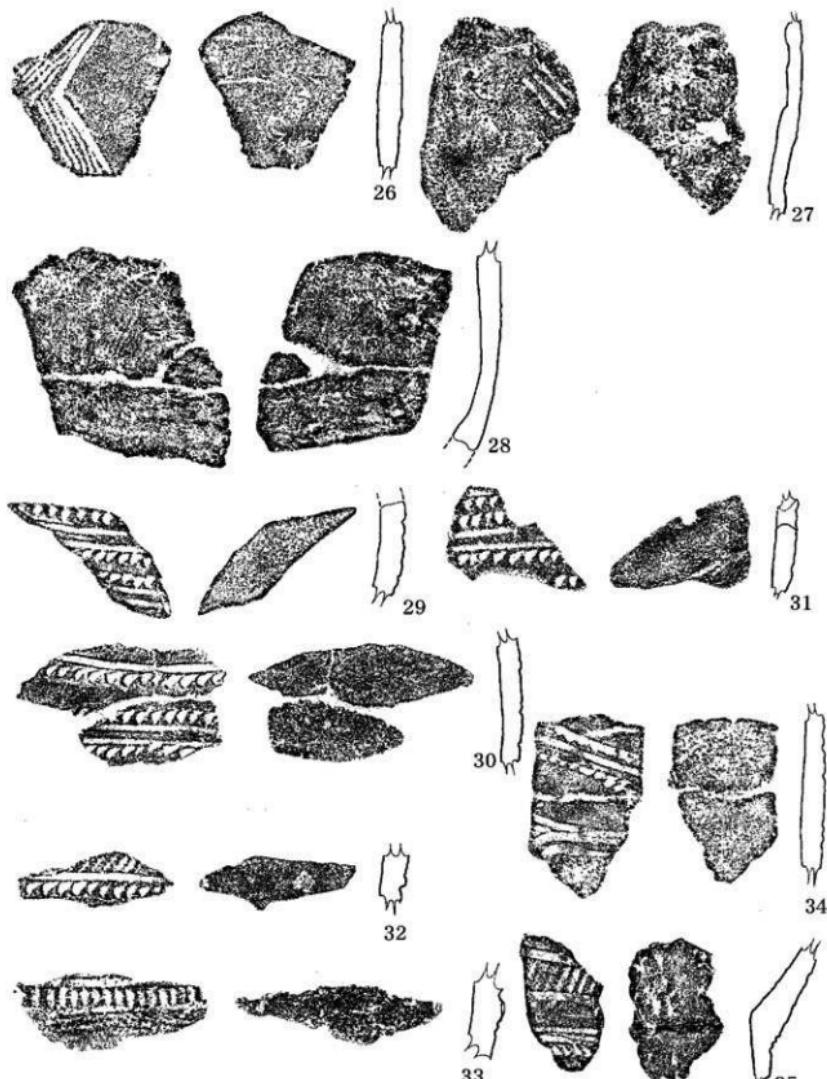




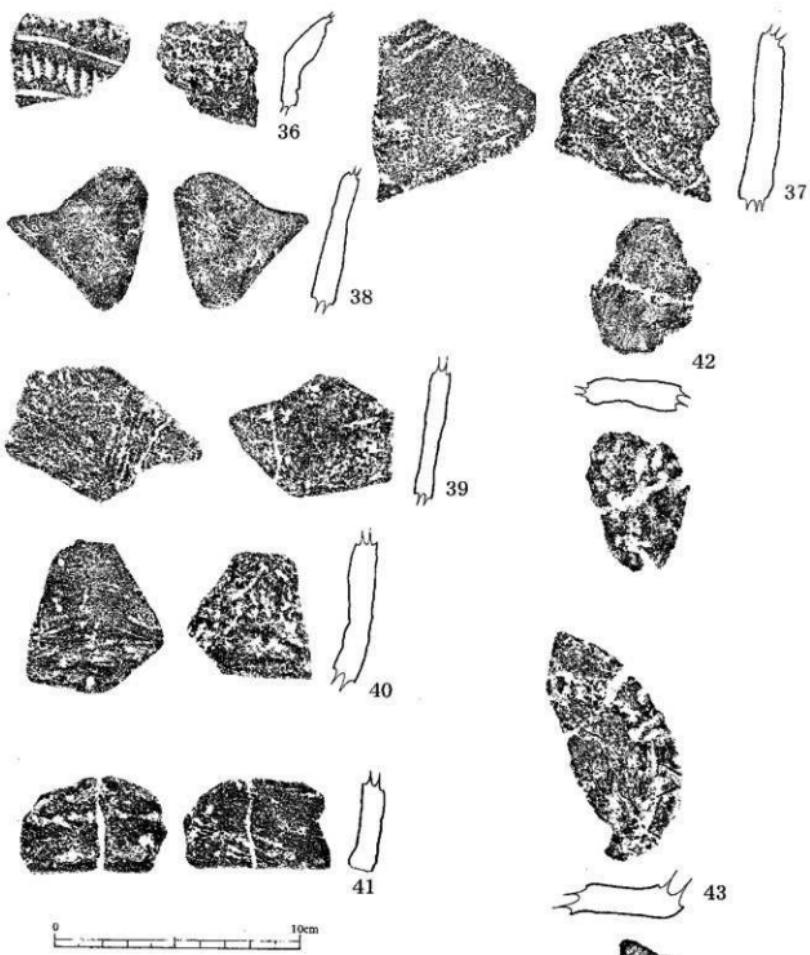
第15図 土器実測図1



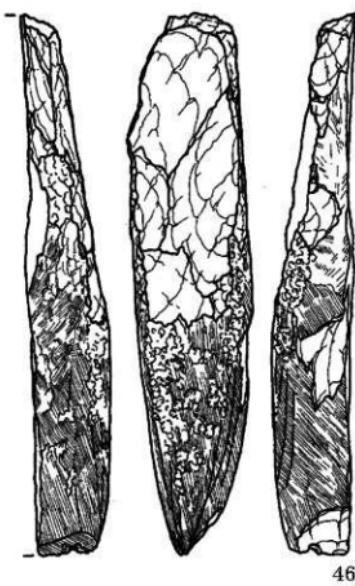
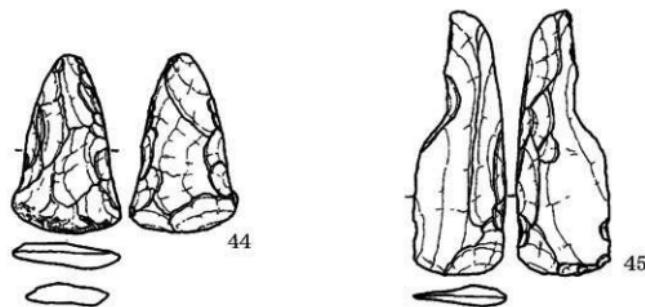
第16図 土器実測図2



第17図 土器実測図3

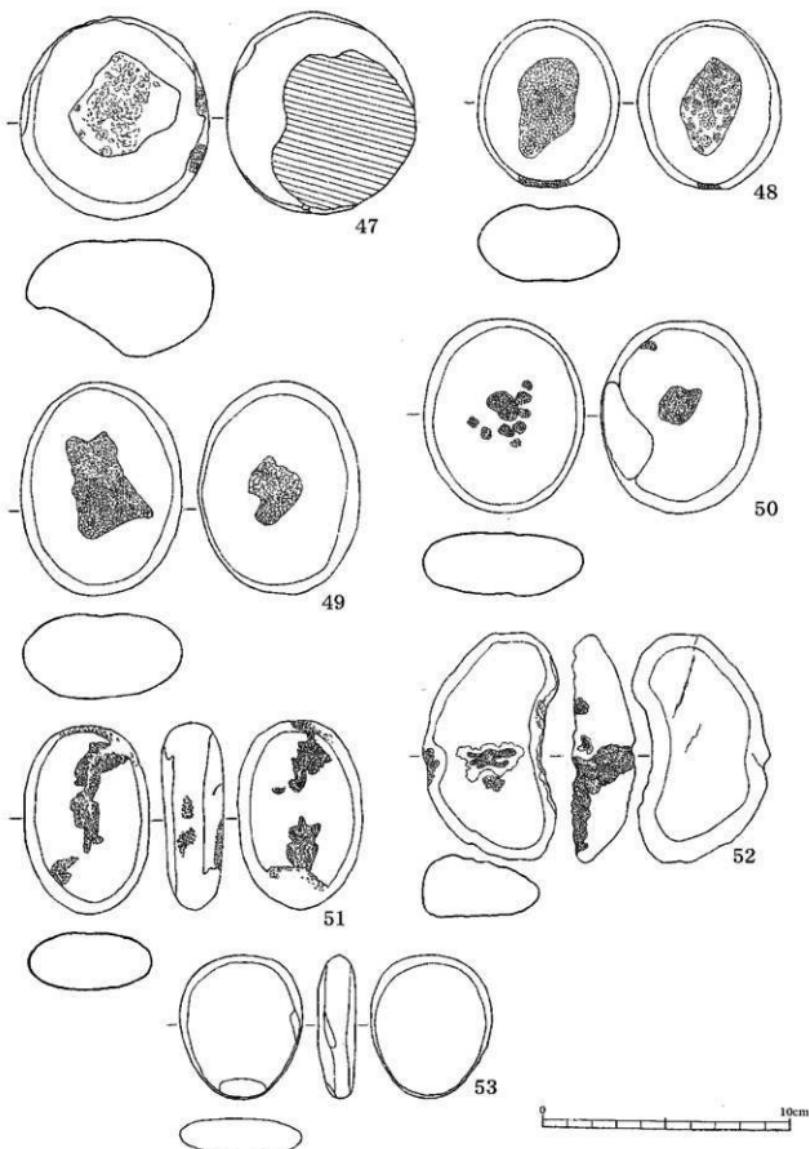


第18図 土器実測図4

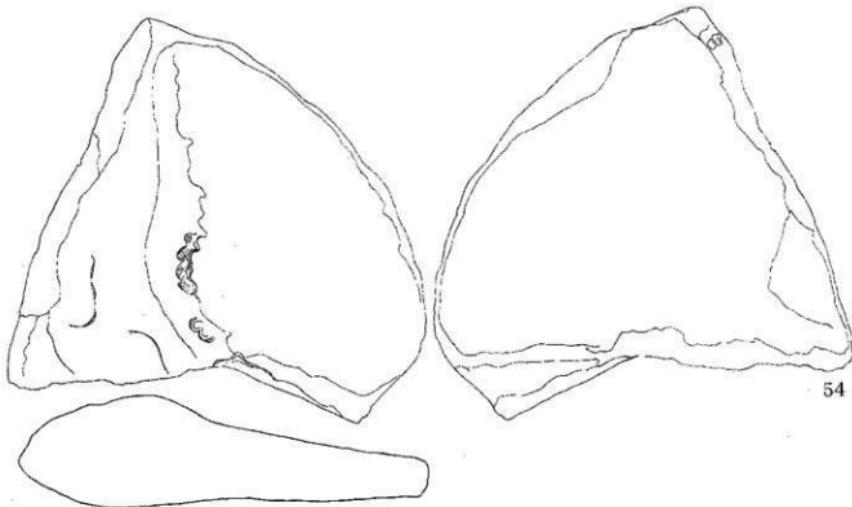


0 5cm

第19図 石器実測図（1）



第20図 石器実測図（2）



54

55

56



第21図 石器実測図（3）

第5表 土器觀察表

掲図	番号	取上番号	色調		胎土	備考
			外面	内面		
15	7	166	乳茶褐色	灰黃褐色	石英・長石・砂粒	口縁部
	8	84	暗茶褐色	乳茶褐色	石英・長石・砂粒	口縁部
	9	1号配石 内 1	茶褐色	茶褐色	石英・長石・砂粒	口縁部
	10	67	乳茶褐色	乳茶褐色	石英・長石・砂粒	口縁部
	11	43	茶褐色	茶褐色	石英・長石・砂粒・礫	口縁部
	12	9	乳茶褐色	乳茶褐色	石英・長石・砂粒	口縁部
	13	131	乳茶褐色	灰茶褐色	石英・長石・砂粒	口縁部
	14	158	茶褐色	黃茶褐色	石英・長石・砂粒	口縁部
	15	93	赤茶褐色	赤茶褐色	石英・長石・砂粒	口縁部(無文)
	16	143	黑茶褐色	乳茶褐色	石英・長石・砂粒・礫	口縁部
	17	108	乳茶褐色	乳茶褐色	石英・長石・砂粒	
16	18	54/60/ 62/103/ 104/106/ 108/114/ 136	赤茶褐色	赤茶褐色	石英・長石・砂粒・礫	
	19	114	乳茶褐色	黃茶褐色	石英・長石・砂粒	
	20	63	乳茶褐色	黑茶褐色	石英・長石・砂粒	
	21	55	灰茶褐色	赤茶褐色	石英・長石・砂粒	
	22	197	乳茶褐色	黃茶褐色	石英・長石・砂粒・礫	
	23	56	茶褐色	灰黃茶褐色	石英・長石・砂粒・礫	
	24	203	灰茶褐色	灰黃茶褐色	石英・長石・砂粒・礫	
17	25	160	赤茶褐色	灰黃茶褐色	石英・長石・砂粒	
	26	196	黑褐色	灰黃茶褐色	石英・長石・砂粒	
	27	24	赤茶褐色	茶褐色	石英・長石・砂粒・礫	
	28	91	灰黃褐色	灰黃褐色	石英・長石・砂粒	
	29	71	赤茶褐色	灰黃茶褐色	石英・長石・砂粒	
	30	109	灰黑褐色	灰黃茶褐色	石英・長石・砂粒・礫	
	31	72	乳茶褐色	灰黃茶褐色	石英・長石・砂粒	
	32	162	灰黃茶褐色	灰黃茶褐色	石英・長石・砂粒	
	33	23	黑茶褐色	乳茶褐色	石英・長石・砂粒・礫	

第6表 土器観察表

挿図	番号	取上番号	色調		胎土	備考
			外面	内面		
17	34	52	乳茶褐色	灰黄茶褐色	石英・長石・砂粒	
	35	77	黑茶褐色	灰黄茶褐色	石英・長石・砂粒	
18	36	76	灰茶褐色	茶褐色	石英・長石・砂粒	
	37	189	赤茶褐色	灰黄茶褐色	石英・長石・砂粒・礫	
	38	181	灰茶褐色	乳茶褐色	石英・長石・砂粒・礫	
	39	79	乳茶褐色	黑褐色	石英・長石・砂粒	
	40	75	乳茶褐色	乳茶褐色	石英・長石・砂粒	
	41	74	赤茶褐色	灰茶褐色	石英・長石・砂粒・金雲母	底部付近
	42	37	黄褐色	灰黄褐色	石英・長石・砂粒・礫	底部
	43	80/82	灰茶褐色	灰黑褐色	石英・長石・砂粒	底部

● 土器の出土層は全てIV層である

第7表 石器観察表

挿図	番号	器種	取上番号	出土層	最大長cm	最大幅cm	最大厚cm	重量g	石材
19	44	磨製石斧	720	IV	5.4	3.3	0.6	13.5	粘板岩
	45	磨製石斧	305	IV	8.0	2.3	0.6	11.7	粘板岩
	46	磨製石斧	393	IV	16.4	3.6	3.6	181.3	粘板岩
20	47	磨石・敲石	199	IV	8.3	7.7	4.8	390.0	砂岩
	48	磨石・敲石	192	IV	6.9	5.8	3.1	185.4	砂岩
	49	磨石・敲石	10	IV	8.7	6.6	3.5	300.3	砂岩
	50	磨石・敲石	92	IV	8.0	6.6	2.6	190.5	砂岩
	51	磨石・敲石	115	IV	7.6	5.1	2.2	170.8	砂岩
	52	磨石・敲石	57	IV	9.3	3.8	2.2	150.5	砂岩
	53	磨石	44	IV	5.8	5.0	1.5	60.2	砂岩
21	54	砥石	11	IV	22.2	25.2	6.4	3550.4	砂岩
	55	台石	2号 配石 1・3	IV	29.0	15.9	3.2	1800.3	砂岩
	56	台石	137	IV	19.5	13.5	4.0	1020.2	砂岩

## 第V章 調査のまとめ

### 第1節 調査結果

調査を実施した青野原遺跡は、縄文時代早期の遺跡であることが判明した。調査面積は狭小であったが遺構4基が検出され、遺物は貝殻文・撲糸文を主体とする土器片が出土し、石器では石斧が4点出土したことが特筆される。他に磨石・敲石類、台石が出土した。

#### (1) 遺構

集石1基・配石3基が検出された。いずれも第IV層から検出されたものである。

集石は礫の点数も極めて少なく、散在した形態を呈するものである。礫は熱変色を受け、破碎したものも見受けられるが、焼土や掘り込みは確認されなかったものの、中心部からは炭化物が検出された。

配石のうち2号配石は1・3号とは趣を異にする。約20cmの砂岩が4点やや斜めに積み重なった状態で検出され、うち上から1番目と3番目の礫は同一のものが割れたものであった。つまり、礫自体は2点で構成されたものである。石材は砂岩で熱を受けた痕跡は見られないが、一部敲打痕は観察される。祭司的なものなのか、石器の石材として集められたものか現時点では不明であるが、意図的にこのような状態に積み重ねたと考えられる。今後、他の類例も踏まえて検討していく必要がある。

1・3号配石はその形態から配石としたが、礫が熱変色している点などから、本来は集石であったものが、崩壊したものであると思われる。いずれも礫の点数が少ないため全体像を捉えるのは困難である。

すべての遺構について、構成される礫が少ないので特筆される。

#### (2) 土器

縄文時代早期の塞ノ神式土器が出土する。出土層は第IV層であり、集石・配石遺構と時期を同一とする。

塞ノ神式土器のうちで撲糸文を施した塞ノ神A式土器、貝殻文の塞ノ神B式土器が出土している。塞ノ神式土器の変遷については、これまでの研究で様々な議論が交わされ、現状では撲糸文系土器が貝殻文系に先行するという報告例が増加している。

本遺跡では、撲糸文系・貝殻文系の土器の上下関係は確認することはできなかったが、種子島においても上記の変遷過程に準じていくのか、今後詳細な調査を行い明らかにしていかねばならない。

### (3) 石器

石器の出土量は、土器片に比べると極めて少ない。調査面積が狭小であったことも要因の一つであろう。主な出土物は石斧、敲石、磨石、台石である。

44・45は小型の石斧である。44は磨製で刃部付近が外に張り出しているのが特徴的である。45は厚さが非常に薄い石斧であり、基部の一部が破損している。これらの石斧はその形状から木材を伐採するのは困難であり、主に木材を加工する目的で製作・使用されたものと思われる。46は側面を敲打で仕上げ、やや丸ノミ状の刃部をもつ。このような丸ノミ型の石斧は、時期が明確なものとしては、縄文時代草創期の桙ノ原遺跡(鹿児島県加世田市)・掃除山遺跡(鹿児島市)などでの出土例がある。また、平成13年度に調査を行った縄文時代草創期の鬼ヶ野遺跡(鹿児島県西之表市)からは10数本の丸ノミ型石斧が出土している。縄文時代早期では前畠遺跡(鹿児島県鹿屋市)での出土例がある。

### (4) 総括

青野原遺跡は西之表市の西海岸の海岸段丘上に位置しているが、西海岸沿いには遺跡の数は少なく、逆に最近の調査事例では東海岸沿いに縄文時代草創期・早期の遺跡が多く所在することが明らかとなってきた。遺跡の立地については、開発事業の場所が近年東海岸沿いに多いことなども考えられるが、今後遺跡の時代ごとの立地等、明らかにしていく必要がある。

遺構は集石1基・配石が3基検出された。いずれも縄文時代早期のものと思われる。特に2号配石は礫が4点積み重なった状態で検出されたが、熱を受けた痕跡等は見られず、石器を作るために持ち寄ったものか、または祭祀的なものなのかは特定できなかった。今後、他の類例をふまえながら検討していくなければならない。住居址・ピット・上抗などの生活遺構は検出されなかつた。

遺物では、丸ノミ状の石斧が1点出土したことが特筆される。丸ノミ型石斧は、「桙ノ原型石斧」ともいわれ基部に突起部分をもち、敲打整形が行われ、丸ノミ状の刃部をもつ磨製石斧のことと、丸木舟製作工具として利用されたとの説もある。

しかし、最近の研究では丸木舟製作に限定できないという説もあり、鬼ヶ野遺跡(西之表市安城)で出土した丸ノミ型石斧の大きさや形状を見ると、丸木舟の製作工具としてだけではなく、様々な木材加工を行うため、その用途によって使い分けを行っていたとも思われる。本遺跡は縄文時代早期後半であり、種子島では鬼ヶ野遺跡の調査によって縄文時代草創期から丸ノミ型石斧が存在することが明らかとなったが、この石斧が早期にまで及ぶことが確認された。また、出土した石斧は丸ノミ型石斧を除いていずれも小型であり、木材を加工する目的の石斧と思われ、木材を積極的に利用していたことが伺われる。

出土土器の主体は塞ノ神式土器であり種子島内では各地で確認されている土器である。文様構成は主に貝殻・燃糸と2種類見られる。文様での時間差は今回の調査で明らかにすることはできなかったが、今後調査事例が増加していくことにより、これらの点が解明されていくことに期待したい。

参考文献 上野原遺跡（第10地点）「第6分冊」  
鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（28）2001

城ヶ尾遺跡 鹿児島県立埋蔵文化財センター  
鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（60）2003

九日田遺跡・供養之元遺跡・前原和田遺跡 鹿児島県立埋蔵文化財センター  
鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（36）2002

椿ノ原遺跡（第1分冊）加世田市教育委員会  
加世田市埋蔵文化財発掘調査報告書（15）1998

奥ノ仁田遺跡 西之表市教育委員会  
西之表市埋蔵文化財発掘調査報告書（7）1995

嶽ノ中野B遺跡 西之表市教育委員会  
西之表市埋蔵文化財発掘調査報告書（8）1995

鬼ヶ野遺跡発掘調査事業報告書  
西之表市教育委員会 2002

## 付 編

### 青野原遺跡から出土した炭化材の年代

パリノ・サーヴェイ株式会社

#### はじめに

青野原遺跡は、種子島西岸の海岸段丘上に位置する。本遺跡の層序はI層～IX層に区分され、I層が表層となる。また、III層がアカホヤ火山灰、VI層がAT火山灰である。このうち、IV層からは集石や配石が検出されている。

今回の分析調査では、IV層の集石から出土した炭化材の放射性炭素年代測定を行い、遺構の構築・使用時期に関する資料を得る。

#### 1. 試料

試料は、1号集石から出土した炭化材1点である。

#### 2. 方法

測定は、加速器質量分析法(AMS法)で行い、放射性炭素の半減期はLIBBYの5568年を使用した。なお、測定は、株式会社加速器分析研究所(IAA)が行った。

#### 3. 結果

放射性炭素年代測定結果を表1に示す。年代は、 $7730 \pm 40$ BP(補正年代 $7690 \pm 40$ BP)であった。なお、炭化材の樹種を確認したが、散孔材の道管配列を有する小径の広葉樹であるのは明らかであったが、種類の同定には至らなかった。

表1 放射性炭素年代測定結果

層位	遺構・資料名	資料の質	測定年代	$\delta^{13}C$	補正年代	Code No.
IV層	1号集石内炭化物	炭化材(広葉樹 散孔材)	$7730 \pm 40$ BP	$-27.63 \pm 0.77\%$	$7690 \pm 40$ BP	IAAA-30605

1) 年代測定は、加速器質量分析法(AMS法)による。

2) 測定年代は1950年を基点とした年数で、補正年代は $\delta^{13}C$ の値を基に同位体効果による年代誤差を補正した値。

3) 放射性炭素の半減期は5568年を使用した。

#### 4. 考察

1号集石が検出されたIV層からは、主として塞ノ神式土器が出土しており、1号集石等の遺構も縄文時代早期と考えられている。九州における縄文時代早期の年代については、これまでの年代測定結果で10240BP～6360BPの年代値(いずれも未補正値)が得られており、

塞ノ神式土器に伴う年代では7840BP～6360BPの値が得られている(キーリ・武藤、1982)。

今回の年代値は、既知の塞ノ神式土器に伴う年代測定値の範囲に収まっており、発掘調査所見とも一致する。今後、同層準の土器付着炭化物試料などについてさらに年代測定を行い、複数試料から年代を検討することでより詳細な年代を明らかにしたい。

#### 引用文献

キーリ C. T. ・ 武藤康弘(1982) 縄文時代の年代 加藤晋平・小林達雄・藤本 強編「縄文文化の研究1縄文人とその環境」, P. 246-275, 雄山閣

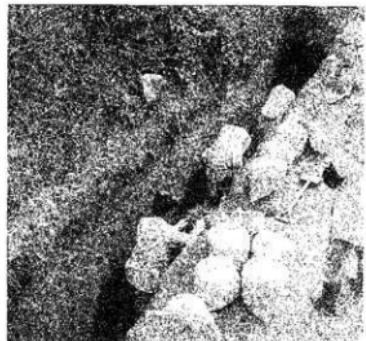
# 写真図版

主婦の手料理

主婦の手料理

主婦の手料理

主婦の手料理



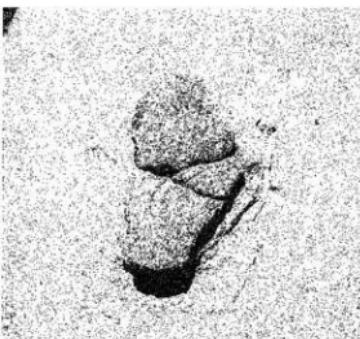
調査風景



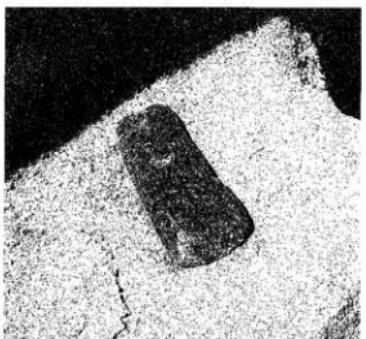
調査風景



土器出土状況



土器出土状況



石斧出土状況



確認調査

遺構検出状況

図版 2



調査風景



調査風景



調査風景



調査風景



土器出土状況



緊急発掘調査

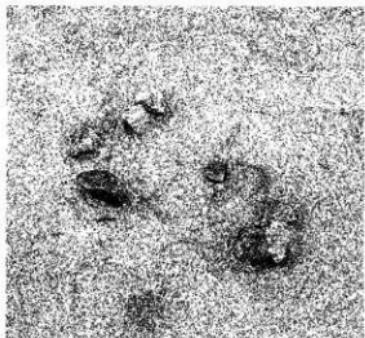
土器出土状況



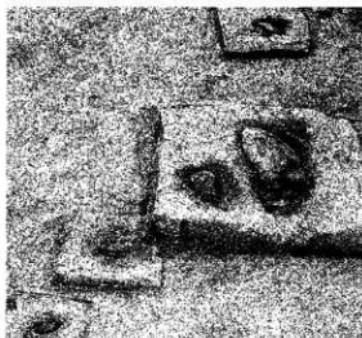
石斧出土状況



石斧出土状況



1号集石



1号配石



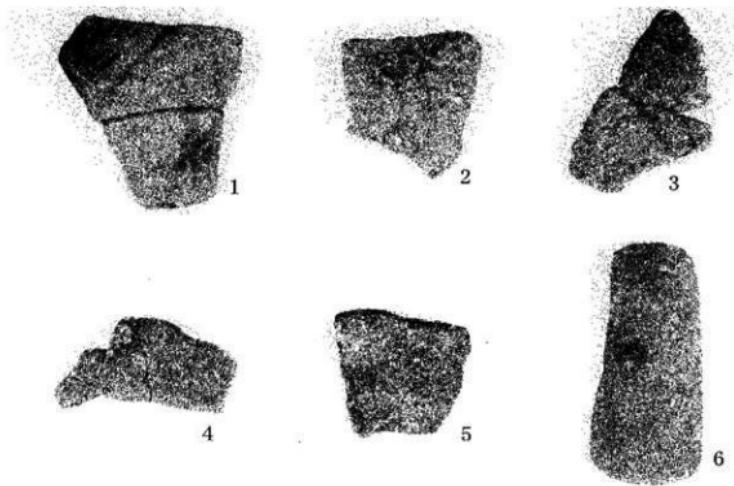
2号配石



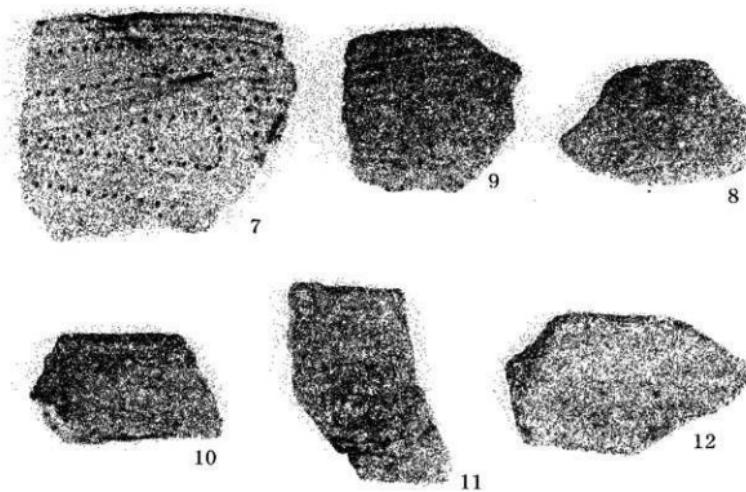
3号配石

緊急発掘調査

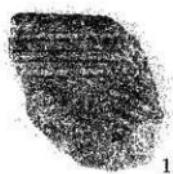
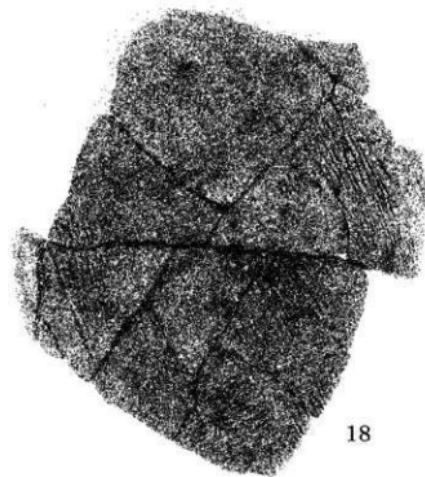
図版 4



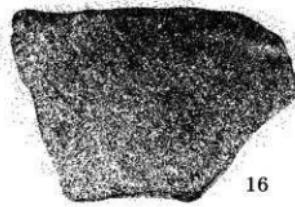
確認調査出土遺物



出土遺物（1）



13



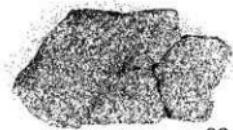
16



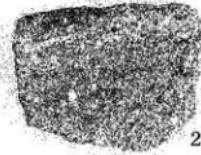
19



21



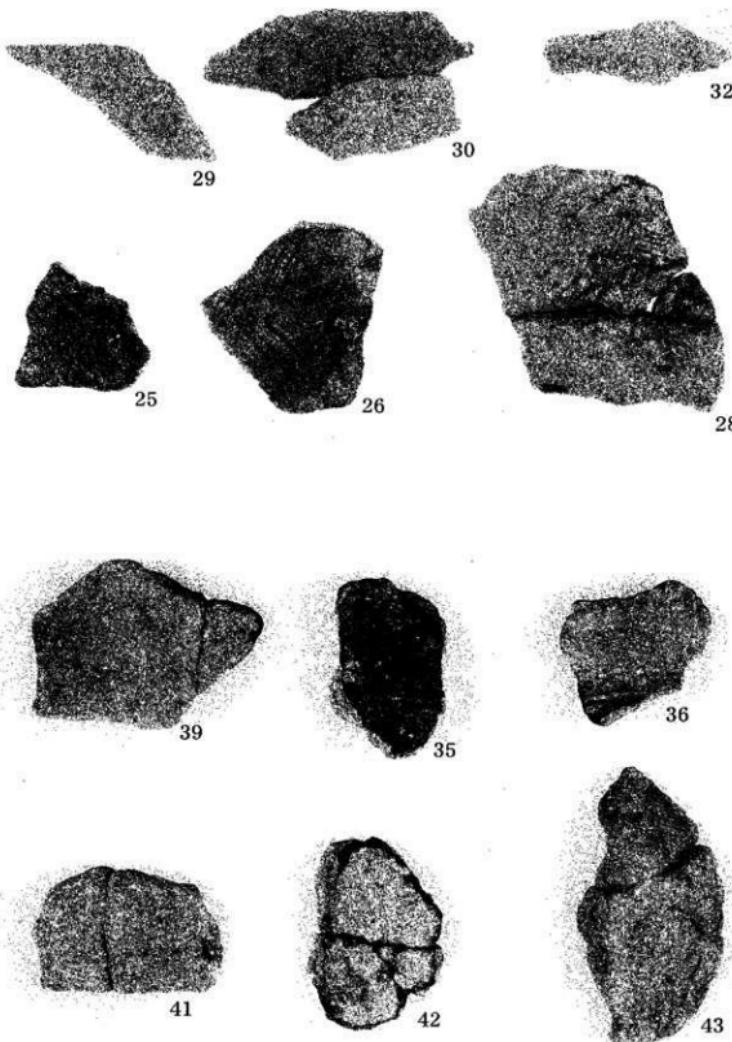
22



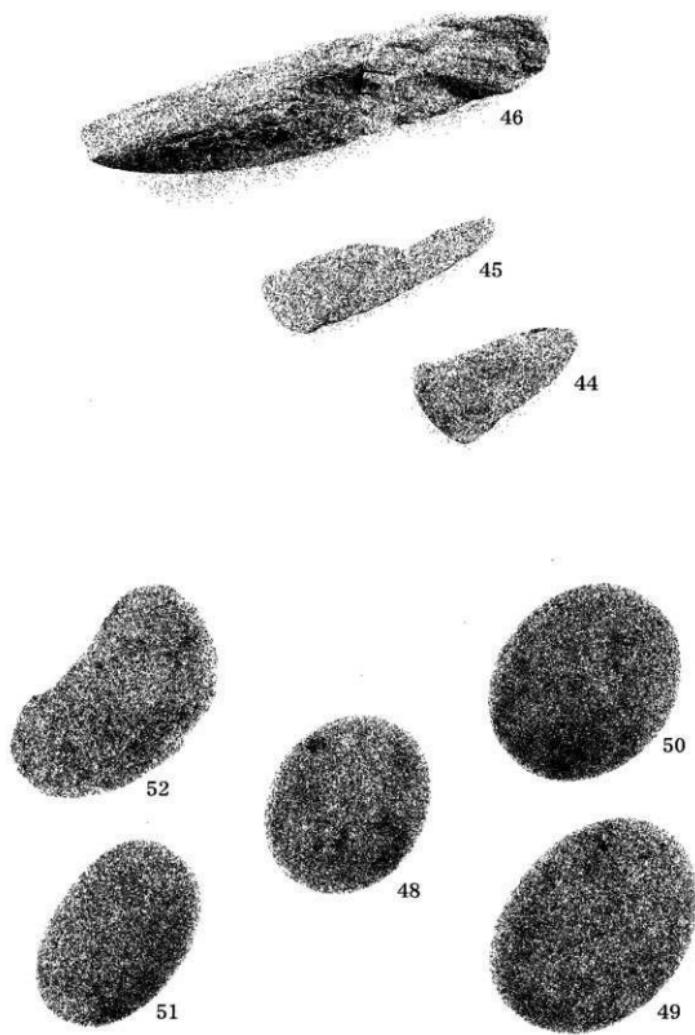
24

出土遺物（2）

図版 6

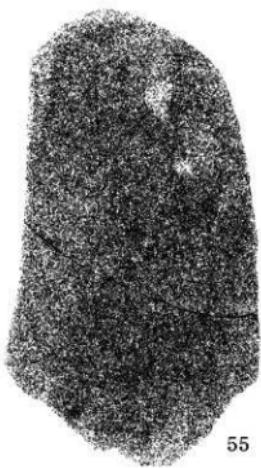


出土遺物（3）

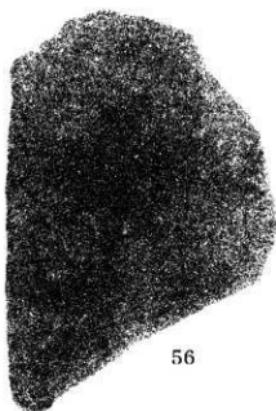


出土遺物（4）

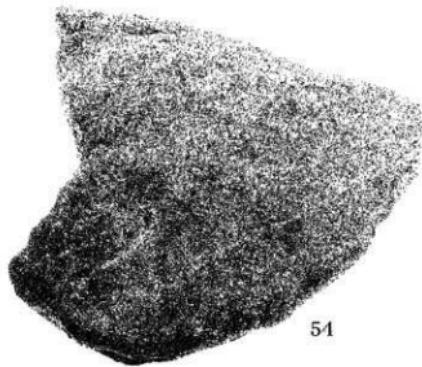
圖版 8



55



56



54

出土遺物（5）



確認調査



緊急発掘調査

発掘調査に携わった方々

西之表市埋蔵文化財発掘調査報告書（12）

## 青野原遺跡

発行日 2004年2月28日

発行 西之表市教育委員会

〒891-3193 鹿児島県西之表市西之表7612番地

TEL (0997) 22-1111

印刷 (有)種子島新生社印刷

〒891-3101 鹿児島県西之表市西之表16736番地1

TEL (0997) 22-0476

